

特別講演会

ロボット工学のリーダーとして注目を集めるロボットクリエイター

古田貴之氏に聴く

「ロボット技術で未来を創る」

～2020年東京オリンピックでのロボット技術応用実装を目指す～

主催：公益社団法人 日本橋法人会

移動ロボットの自動操縦競技会「つくばチャレンジ」では参加団体で唯一、3年連続完走&つくば市長賞受賞。福島第一原発事故では、唯一、原発建屋全フロア踏破可能な災害対応ロボットを開発・提供。政府の福島原発冷温停止ミッションを遂行・成功させた。

内閣府・首相官邸の改革2020プロジェクト：「プロジェクト3：先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現」を提案し政府の重点施策として推進。同プロジェクトでは、2015年より「ユニバーサル未来社会推進協議会」の副会長を務め、2020年東京オリンピックでのロボット技術応用実装を目指す。ロボットクリエイター古田貴之氏を講師にお招きし、標記のテーマにてご講演いただきます。

〔講師〕千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 所長

ふるた たかゆき 古田 貴之 氏

〈プロフィール〉

- 1968年 東京都生まれ
- 1996年 青山学院大学理工学部助手
- 2000年 博士（工学）取得
- 2000年 文部科学省の外郭団体：独立行政法人科学技術振興機構のロボット開発グループリーダーとしてヒューマノイドロボットの開発に従事
- 2003年6月～ 現職
- 2014年2月～ 学校法人千葉工業大学 常任理事（兼務）、現在に至る

1. 日 時 平成29年 8月 4日(金) 13時30分 ～ 15時00分
2. 会 場 日本橋公会堂 4階 大ホール
中央区日本橋蛸殻町 1-31-1 TEL 03-3666-4255
3. 聴 講 料 無 料
4. 定 員 200名(定員になり次第締め切ります)
5. 申込方法 当会ホームページ、または下記申込書にご記入の上FAXにてお申し込み下さい。

〔申込み先〕公益社団法人 日本橋法人会 FAX 03-3663-3307

—— 特別講演会「ロボット技術で未来を創る」 講師 古田貴之氏

申込書・出席票（平成29年8月4日開催）—公2

会 員 ・ 一 般 （いずれかに○をお付け下さい）

会社名	電話
所在地	FAX
参加者名	他 名

※ ご記入いただきました個人情報、当セミナーの準備のため（お問い合わせを含む。）に利用する以外には使用いたしません。当日この出席票を受付へご提出下さい。

ふるた たかゆき
古田 貴之 氏



肩書：千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 所長

略歴：1968年 東京都生まれ。
1996年 青山学院大学大学理工学部助手。
2000年 博士（工学）取得
2000年 文部科学省の外郭団体：独立行政法人
科学技術振興機構のロボット開発グループリーダー
として、ヒューマノイドロボットの開発に従事。
2003年6月～ 現職。
2014年2月～ 学校法人千葉工業大学 常任理事（兼務）、
現在に至る。

移動ロボットの自動操縦競技会「つくばチャレンジ」では参加団体で唯一、3年連続完走&つくば市長賞受賞。
福島第一原発事故では、唯一、原発建屋全フロア踏破可能な災害対応ロボットを開発・提供。
政府の福島原発冷温停止ミッションを遂行・成功させた。

変形する車「Halluc II（ハルクツー）」、家に生体センサを埋め込んだ自動健康診断システムから災害対応
ロボットまで、人々の衣食住のロボット技術による再定義に日々取り組む。

その一方で、東京スカイツリータウン「ソラマチ」8階にて、フロア全てを利用した唯一の常設展示：ロボット
体験アトラクションゾーン「スカイツリータウンキャンパス」を総合プロデュースするなどロボット技術の文化
への土着活動を推進する。
なお同ゾーンは文化庁メディア芸術祭の審査委員特別賞を受賞している。

2012年以降、桐原書店の高校2年生用の英語教科書：「WORLD TREK English Communication II」にて、現役大学
研究者では初めて、古田の半生が物語として教材に取り入れられる。

2015年4月には未来の乗り物“ILY-A（アイリーエー）”を発表、モビリティを再定義し、新しいライフスタイル
を提案した。

ILY-Aは、イタリア「ミラノデザインウィーク 2015」に出展し世界的に話題になった。

ILY-Aは、2015年経産省 Good Design 賞、2016年、ドイツの iF デザイン賞（iF design award）受賞。

内閣府・首相官邸の改革2020プロジェクト：「プロジェクト3：先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会
の実現」を提案し政府の重点施策として推進。同プロジェクトでは、2015年より「ユニバーサル未来社会推進
協議会」の副会長を務め、2020年東京オリンピックでのロボット技術応用実装を目指す。